



知床科学委員会 しんぶん

知床世界自然遺産地域 科学委員会

NO. 13



「知床で今何が起きているの!」「どんな調査が行われているの!」など、タイムリーな情報をお伝えします。



必見!
TOPIC

“世界遺産”の価値をどう守る? ～続・知床が続けてきた取り組み～

海と陸の生態系が繋がり、多種多様な生き物が生息する知床では、野生動植物の保護や管理、あるいは観光や産業に利用する際の方針となる6つの計画が定められています。

知床世界自然遺産管理計画

(2009年12月策定)

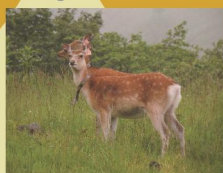
- ・ “自然遺産としての価値”を守り、後世に引き継ぐ
- ・ 知床の自然を順応的に管理
- ・ 科学的知見からの助言を得るため、「科学委員会」を設置

長期モニタリング計画

(2012年4月-2022年3月)

- ・ 順応的な管理に必要な調査項目を設定(37項目)。
- ・ 遺産登録時からの状態の変化をモニタリングし、科学委員会や各WGで評価。

10年を一期とし、5年毎に評価や項目の見直しを行います。今年がその時期にあたります。



海域WG

第2期計画の改訂時期となり、海域WGでは計画の見直しが進められました。

海域管理計画 ※2

海洋生態系の保全と、持続的な水産資源の利用による安定的な漁業の営みの両立を目的とした管理計画。

エゾシカ管理計画 ※1

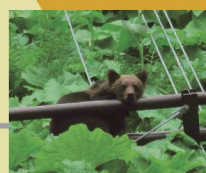
エゾシカの数进行调整し、高密度化による知床の生態系への影響を少なくするための方策やモニタリング項目を設定。

現在、減少傾向にあり、植生の回復も確認されていますが、遺産地域にはまだ密度の高い場所もあり、対策が進められています。

エゾシカ・ヒグマWG

ヒグマ管理計画 ※1

地域住民の生活や産業、利用者の安全等を守りながら、ヒグマを管理していくための方策(捕獲頭数など)やモニタリング項目を設定。



ヒグマとの軋轢を少なくするため、新たに「ヒト側の行動」が管理の中に明記されました。

知床エコツーリズム戦略

(2013年3月策定)

- ・ 知床のエコツーリズムを含む観光利用の基本方針。
- ・ 保全や持続可能な利用等に関する3原則と8視点に基づき利用を推進。

適正利用・エコツーリズム
検討会議

知床では、戦略に基づく提案と承認の仕組みのもと、新たな観光利用の形やルールが作られています。

※1 第3期知床半島エゾシカ管理計画、知床半島ヒグマ管理計画(2017年4月1日～2022年3月31日の5年間)
※2 第3期知床世界自然遺産地域多利用型総合海域管理計画(2018年3月策定予定)

今回の会議

科学委員会本体会議は、毎年、年2回開催されています。平成29年度2回目の会議は、2月21日(水)に札幌市で開催されました。会議の内容については裏面をご覧ください。





長期モニタリング計画の見直し 検討状況



科学委員会（本体会議）と各WG等で担当するモニタリング項目の5年間の中間総括と具体的な見直し案について検討が行われました。科学委員会（本体会議）では、全部で37項目あるモニタリング調査のうち、担当する気象観測やシマフクロウ、年次報告書（知床白書）の作成に関する4項目について長期モニタリング項目としての継続性等を議論しました。

継続

No.23 シマフクロウ

- つがい数に変化なく、安定。
- 繁殖成功率は上下に変動あるが、現在大きな問題は生じていない。

検討

No.21 気象観測

No.24・25 年次報告書の作成

- 特に気象観測の重要性について議論（知床では地形の影響で局所的に気象が変化、知床の脆弱な生態系への気候変動の影響の把握が重要 etc...）。

（No. はモニタリング項目の番号）



世界遺産委員会からの新たな宿題 にどう対応する？



2017 年7月に第41回世界遺産委員会で決議された知床への勧告に対し、どのような方針で報告書をまとめるか議論が行われました。トドについては、海域WG から、海域管理計画の考え方や漁業被害の実態、ドローンによる来遊頭数調査等の新たな管理基準を設けるために必要なデータ収集を進めること、漸増傾向にある千島列島起源のトドの捕獲が個体群全体に及ぼす影響は少ないと考えられること等を報告する案が示されました。今回の議論を踏まえ、今年の夏前頃を目途にそれぞれの勧告項目に対する案のとりまとめを行い、今年12 月迄に報告書を提出する予定です。



モイレウシで観察されたトド



平成29年度第2回科学委員会の様子

- 科学委員会（本体会議）の構成メンバー
- 委員長・海域WG座長
 - 桜井 泰憲（函館頭足類科学研究所 所長）
 - エソシカ・ヒグマWG座長
 - 宇野 裕之（環境科学研究所 センター 研究主幹）
 - 河川工作物AP座長
 - 中村 太士（北海道大学大学院 教授）
 - 適正利用・エコツーリズムWG座長
 - 敷田 麻実（北陸先端科学技術大学院大学 教授）
 - 愛甲 哲也（北海道大学大学院 准教授）
 - 石川 幸男（弘前大学白神自然環境研究所 教授）
 - 梶 光一（東京農工大学大学院 教授）※欠席
 - 工藤 岳（北海道大学大学院 准教授）
 - 志田 修（北海道中央水産試験場 資源管理部長）
 - 白岩 孝行（北海道大学低温科学研究所 准教授）
 - 牧野 光琢（中央水産研究所 水産政策グループ長）
 - 綿貫 豊（北海道大学大学院 教授）※欠席
- （委員長・座長以下、50音順）

会議やバックナンバーの内容を
もっと知りたい方はコチラ

知床データセンター で検索！

<http://dc.shiretoko-whc.com/>

ここで紹介した会議の資料や、
知床で行われている様々な
モニタリングデータを
ご覧いただけます！



■問合せ先■ 環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639 北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階 TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

■発行：環境省

■制作：公益財団法人 知床財団

■発行日：2018年 3 月